

(2面からの続き)

「バス調整」はとても非効率を感じることが多い。

訪問看護や往診の調整を行う際に不在のため取り次ぎ、逆に折り返しの連絡があつても出られないことが日々繰り返されていく。それを解消するためにICTが力を発揮するはずだ。

## 道内に医療・介護・

調整を行なう際に不在のため取り次ぎ、逆に折り返しの連絡があつても出られないことが日々繰り返されていく。それを解消するためにICTが力を発揮するはずだ。

道内に医療・介護・

本質を見極め、質の高い支援、面接ができるようになることが大切だ。生活者である本人の思いを大事にするのが福祉職であり、その本質は変わらない。

科学的介護、その先の福祉連携ソフト導入の先進事例が80カ所程度あると聞いているが、その多くは1つの医療機関を中心に行なわれており、それぞれに互換性がなく広がらないという指摘がある。こうした問題の解決に向けても、協会会長といふ立場をうまく利用しながら推進策を模索していけば。

資質とは

世代にとって、ケアマネ実務に就かないといった問題が重なり合った大きな課題と言える。

ICTが推進されたとしても「対人援助」の

期待でき、歓迎すべきだろう。

コロナ禍も落ち着き

日常を取り戻しつつあり、サービス担当者会議が再開され始めてい

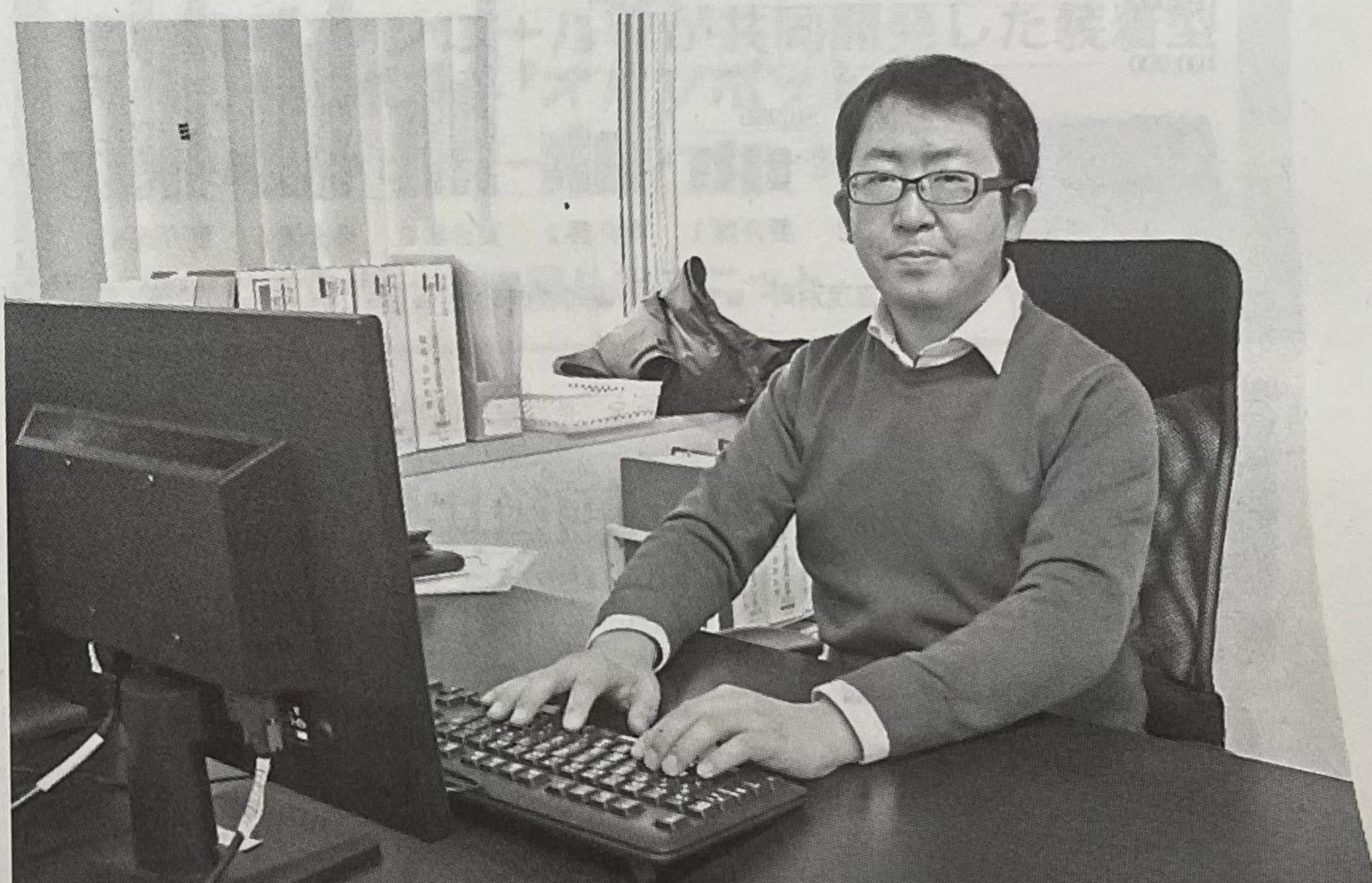
う機会が減り、白髪が増えた利用者は人と会話関係が不可欠。その本質は変わらない。

たという声も。家族と

最初のアセスメントの一歩のリスクは孤立。ケアマネは孤立するリスクがある人を親身にしており、それぞれに互換性がなく広がらない

こと。最初のアセスメントの段階で医学的、科学的視点からアシストしてくれるため、ケアマネスクのある人を親身に

# ICT化推進などに力



## 現状と今後の展望について

現状結果では道内合格者数増加が見られ、若干の解消が期待されるも

が利用者や家族に接する際

科学的介護、ICT化が推進される中でケアマネに求められる

は本来業務に専念できるようになるはず。経験が浅く見立てのできる

ことは、私たちケアマネが地域住民に自身の専門性や必要性を知つてもらうこと。そのためには現任のケアマネ一人ひとりが利用者や家族に接する際

各ブロックから訴えの多いケアマネの、広域な本道における地域偏在や、資格

は得しても多くはケアマネ実務に就かないといった問題が重なり合った大きな課題と言える。

2月からの介護職給

与9000円程度引き上げ対象からケアマネ

が外れ、介護職とケアマネ給与の「逆転現象」も指摘されているよう

に処遇の問題もある。

こうした問題を乗り越えていくためにできることは、私たちケアマネが地域住民に自身の専門性や必要性を知つてもらうこと。そのためには現任のケアマ

ネ一人ひとりが利用者や家族に接する際

に「自身の関わり方がケアマネの評価につながつてい